

認定こども園 星の子保育園
令和6年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

<教育・保育方針>

- ・子ども一人ひとりを大切にせる教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

<具体的な目標>

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和7年2月6日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

決して新しい園舎ではないが、経年が美しく感じられる工夫が随所に見られる。リフォームを定期的かつ計画的に行うことによって、新しさと古めかしさが共存する空間は大人も子どもも落ち着くことの出来る環境と言える。

保育の素材は保育室の面積に対して、一般的な園と比較して、種類も量も多く配置されている上に、個々の素材の質が高く、遊びの選択肢が多い。

その効果か、どの保育室も子ども達が個々の興味に合わせて、思い思いに集中して過ごしている姿が印象的であった。

屋外では選択肢の一つとして足湯や焚火などもコーナー化されていて、よく見る園庭遊びとは異なる冬ならではの営みを拝見することが出来た。

特に火を使った体験が日常的に園内で出来るということは、保育者と子ども達の信頼関係が高い水準で構築されていない限り困難であると考えられるため、その点を高く評価したい。

また、0、1歳児の異年齢保育を前年度より始めたと聞いたので、興味深く観察した。

発達上1歳児間の噛みつきや引っ掻きなどのトラブルは仕方ないと考えていたが、0歳児と1歳児が共存する空間においては、0歳児に対して1歳児が年長者としての振る舞いを意識的にしているように見えた。

実際に異年齢クラスに移行して以降、ケガ等のトラブルも少なくなったという実態を現場の保育者に聞いて、経験に基づく固定観念に捕らわれず変化を恐れない姿勢の大切さを再認識した。物的環境、保育者のかかわり共に滋賀県を代表する園であると言える。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

	目標・取組内容（評価項目）	評価	取り組み状況
1	こどもの意思と自己決定を尊重する保育。	A	園内研修で本取り組みに係る内容を保育者と共有し、クラスミーティング等で随時話題にしながら、こどもの意思と自己決定の尊重について、皆が考え、保育に取り組むことができた。 今年度の取り組みを継続、発展させて、次年度へつなげていきたい。
2	地域環境を子どもの学びのフィールドにする	A	5歳児、4歳児を中心として、神社・商店・大学など様々な街の環境を探索し、多くの刺激を得て、園での遊びに発展させる姿がみられた。次年度は人員配置や、園外保育の計画的な運用を行い、より一層充実させたい。
3	保育に関する記録のあり方の検討・見直し	A	本園においては、保育の計画や記録様式のあり方について、これまでも検討を重ね、園独自に改訂を行ってきた。 こどもの View（意見）を日々保育者は探し、周囲の保育者との対話の中で、子ども理解を深めることに取り組んだ。